

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

ポレーシエ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1992.9.28 No.13

ワクチンキャンペーンにご協力を！

—ジフテリアが再び発生、はしかは日本の130倍！—



今年2月現地ウクライナ共和国ジトーミル市の産婦人科病院院長から医薬品（特にワクチン）援助要請のファックスが入りました。原発事故による子供たちの免疫低下と衛生環境の悪化で、最近日本ではあまり気にもされないようなはしかやジフテリアが大流行し、はしかについては日本の130倍の発生率とのことです。

チェルノブイリ救援・中部では、現地のさらに詳しい発病状況、ワクチンの接種状況、医薬品輸入の現状、日本のワクチンが医療上使用可能かどうか、など詳細に現地に関心を持って来ました。

さらに日本でのワクチン購入についての交渉、ワクチンを冷やしたまま現地に運ぶ方法などこれまで8ヶ月に渡って詳細に検討し、今回正式にワクチンなど医薬品を送るキャンペーンを始めることにしたものです。キャンペーンは、今年10月末まで行い、11月にはスタッフが医薬品とともに現地に行き、病院に直接手渡すことにしました。

一旦子供たちが伝染病に冒されるとそれがきっかけでさらにその他の重い病気にかかりやすくなります。私たちは、ワクチン接種が病気の波及効果を抑える上で大きな力になるものと考えます。どうぞみなさんご協力ください。詳細は、次ページの通りです。

尚、このキャンペーンでも一切戸別訪問はおこなっていませんので不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

○医薬品を送る病院の概略

病院名：ウクライナ共和国ジトーミル市立産婦人科病院

院長：ウラジミール・バシェック44才（小児科医師）

セクション：心臓病、集中治療部、胃腸部、神経部、伝染病部
ベッド数220。

概要：ジトーミル市内の子供全員66,000人の健康管理を行っている。
このうち20,000人はチェルノブイリ原発事故後出生、さらにこのうち210人は、原発近くからまたは放射能高汚染地からの移住者。

○現地の医薬品の現状

はしかワクチン・・・モスクワから供給されていた・・・現在輸入停止。
BCGワクチン・・・タシケントから供給されていた・・・現在輸入停止。
ビタミン剤・・・ユーゴスラビアから供給されていた・・・現在輸入停止。
消毒剤・・・ウクライナでも製造していた・・・生産減少により不足。

○薬品不足に伴う現地の子供たちは・・・（ジトーミル市内だけで）

はしかの増加・・・今年これまでだけで子供1万人あたり131人
（比較：日本の場合子供1万人あたり1人）

ジフテリアの増加・・・ウクライナ共和国では1960年代に予防接種によりほぼ全滅していたが、この1カ月間にジトーミル州だけで6人の子供が発病した。
またその他の感染症も増えている。

○今回現地に送る予定の医薬品

BCGワクチン30,000人分

はしかワクチン10,000人分

ワクチン接種に必要な医療器具（注射器40,000本）

その他、ビタミン剤、院内消毒薬など

尚：費用は、皆様の寄付および郵政省ボランティア預金交付金から医薬品を調達いたします。

救援金の送り先は：郵便振替 名古屋8-108610

またこのキャンペーンでみなさんの写真やメッセージも募集しています。

○写真等の送付先：〒440 愛知県豊橋市八町通3-2 かきの木屋

ジフテリアがウクライナを襲う

(NEWS FROM UKRAINE:NO.15,1992年4月現地記事より)

ウクライナ保健省によれば、223名の子供を含む1101人が1991年にジフテリアに感染した。その中、47人が(子供は12人)が昨年度に死亡した。特に警戒しなければならないのは、この危険な病気の広がるスピードである。例えば1989年にはウクライナ全体でジフテリアの患者は59人、1990年は109人が感染し、そして昨年末にこの数字は10倍に跳ね上がったのだ。今年(1992年)始め、16人の子供を含む109人が感染し、9人が死亡した(子供は二人)。家庭や学校に病気を広める基盤がある事が伝染のプロセスに付加されている。(略)ウクライナでは5年毎に子供達はちょうど良い時期に予防接種をやらない。その結果18%以上の子供達がこの重大な病気に対する免疫を持たない。総合的なジフテリアに対する免疫のレベルは、驚くほど低い。つまり必要とされる85~90%ではなく、43%しかない。これは、感染が自由におこってしまうことを意味する。貿易や消費者サービス、子供の施設など病気を拾うリスクの高い人々は不十分にしか守られていない。したがって問題は、我々は流行病に対処できるか否か?である。(マキシム・バイダ)

救援・中部 ブラジル環境会議で発言?!!

—「放射能難民」NGO条約に盛り込まれる—

ブラジル環境会議のNGOグローバルフォーラムでアメリカNGOコーディネーターのジュディ・カーマイケルさんが、チェルノブイリ救援・中部のメンバーとして「米、日“放射能難民について”」と題して20分間パネラーとして発言しました。

これは、放射能難民認定を求めて朱宮裕子さんが、ヴィスニークとの共同覚書き国連提出のためニューヨークを訪れ、ジュディさんと会談した際、放射能難民についてアピールしてくれると言っていたのが実現したものです。私達は、半信半疑で資料をさらに送ったところチェルノブイリ救援・中部のメンバーとして認めて欲しいという要請文が届きすぐOKを出して結果を見守っていました。(次頁へつづく)



ジュディさん

朱宮さん

ジュディ・カーマイケル
さん

その後彼女から送って来た資料や手紙などによりますと、6月10日の午後のNGOのパネルディスカッションで放射能難民について発言したそうです。

この成果は、最終日にNGO間で採択されたNGO条約で放射能に関する問題として「廃棄物に関する条約」の中に、「世界人権宣言に、人間の生態学的安全、とりわけ放射能に対する安全の権利を保証する条項を付け加えること」として盛り込まれました。

そんなわけで「放射能難民問題」は、広く国際的に知られる所となり、今後具体的に実現に向けて活動する際に大いににやり易くなったと言えるでしょう。

ちなみに当日他のパネラーは、女優のシャーリー・マクレーン（“母なる地球と女性”について）、ペドロ・G・ケクリン（ペルー）、ジェームス・キャメロン（英国、国際法センター所長“国際環境法と市民へのインパクト”）などできた全64名のパネラーの中には、ジョン・デンバー、ポール・ウィンター、ジェリー・ブラウン（大統領候補）、アルバート・ゴア（副大統領候補）などが入っていたそうです。

またブラジル会議後ジュディさん自身は、グローバルネットワーク2000の代表としてアメリカで放射能難民の地位を求めて国連事務総長に提出すべく署名活動を始めました。

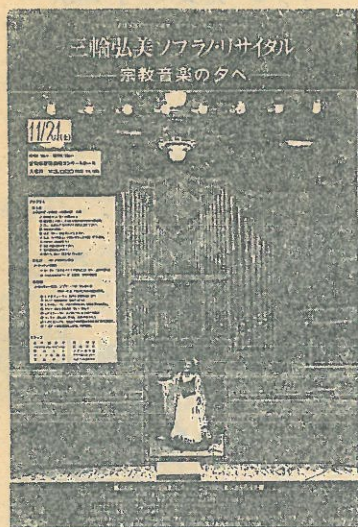
****物資送付報告** 9月にも救援・物資2回送付 総額5000万円突破**

9月12日（第12回：空輸 広島医師調査に同行 松浦千秋）
超音波診断装置 3台
医療機器用トランス 7個
（計 6,854,000円 76Kg）

15日（第13回：空輸 ヒューマン・ネットワークに委託）
喘息用治療薬
白内障治療薬
ネプライザー（喘息治療用吸入器）
（計 173,263円 12Kg）

これまでに皆様にカンパとして送付いただいた金額は総額50,818千円となりました。ありがとうございました。これからもいつまでもこの救援が続けられるようがんばります。どうぞ支援ください。尚、皆様に買っていただいたテレカなどの物品、書籍の売上げ金およびボランティア預金（既に使用分を除く）は、この中には入っておりません。

三輪弘美さんのコンサートを後援します



愛知県芸術劇場のコケラオトシの記念事業としてソプラノ歌手の三輪弘美さんがリサイタルを開かれます。三輪さんは、チェルノブイリ救援・中部の活動の助けになればと今度の収益金をすべて寄付していただけることになりました。コンサートが成功しますよう、どうぞリサイタルへみなさまおこしてください！三輪さんのすばらしいソプラノと世界でも指折りのパイプオルガン奏者鈴木雅明さんの弾く、これまた最高と言われる芸術劇場のパイプオルガンを音色が聞けますよ！！。

尚、チケットは、プレイガイドの他、救援・中部の事務局でも扱っています。郵便振替用紙にチケット何枚と明記してください。

三輪弘美ソプラノ・リサイタル ー宗教音楽の夕べー

日時：11月21日（土） 午後6：30～午後8：30

会場：愛知芸術劇場コンサートホール（名古屋地下鉄東山線栄駅下車
テレビ塔東 元愛知文化講堂）

出演：ソプラノ・ソロ 三輪 弘美
パイプオルガン・チェンバロ 鈴木 雅明
室内オケ ツアー合奏団

プログラム：第一部 ドボルザーク作曲 『聖書の歌』全曲
第二部 J・S・バッハ作曲 パイプオルガン演奏
コーラル「愛するイエスよ我らここにあり」
ファンタジアとフーガ
第三部 “ ソプラノソロ・カンタータ
「我が心は血の海に漂う」

入場料：全自由席 前売 3000円 当日 3500円
（名古屋市内主要プレイガイドにて販売）

主催：三輪ソプラノ・リサイタル実行委員会 芸術協会 東海テレビ

後援：愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会 名古屋二期会 名古屋日伊協会 名古屋スペイン協会 日本凡太平洋東南アジア婦人協会愛知支部 チェルノブイリ救援・中部

知っていますか？低レベル放射線

アリス・スチュワートさん

(放射線によるガンの疫学的研究で世界的に知られている。
バーミンガム大、疫学教室上級研究員。)

○低レベルは、ピンポイント放射線—

Q. 低線量の被曝は人体に悪影響はない、と主張する人がいまだにいます。また最近、低レベルの放射線はホルモンのように人体にとってプラスの効果をもたらす「ホルミシス効果」があるという宣伝をさかんにしています。(事務局注：ホルミシス効果があるといわれる例＝放射線を出すラドン風呂に入ると体にいい(?)といったこと)



アリス—そんなこと、科学的に確かなことが言える証拠はなにもありませんよ。「低レベル放射線」という言い方が誤解を招きやすいんですね。どんなに低レベルでも放射線が人体を通過するとき、体細胞や生殖細胞の遺伝子に衝突すれば傷を与え、その影響がガンや遺伝障害になって出る可能性があります。「低レベル放射線」はむしろ、「ピン・ポイント(針の先)放射線」と表現すべきかしら。

Q. 自然放射線の影響も無視できないと・・・

アリス—85年にイギリスの放射線防護庁が発表した自然放射線の調査データをもとに、小児ガンの研究結果を分析しました。そうしたら、子供のガン死の数は住んでいる地域の自然放射線のレベルと関係あることがはっきりわかったんです。(略) 原爆被爆者の調査データをもとに低レベル放射線の影響を論じるのは、正しくないのよ。被爆生存者というのは、原爆のさまざまな影響を受けたなかで生き延びる強さをもった人たちでしょう？だから、そのガン死亡率も低めに出ると予想されるわけ。それだけで評価すると、放射線の影響を低めに評価することになってしまうの。

以上昨年末行われたインタビュー記事(反原発新聞)より抜粋。

*** 環境問題についての本の紹介 ***

○チェルノブイリ救援・中部の本「とどけウクライナへ」

(坂東弘美著 八月書館)

—— 平凡な母親である私が、生意気にもここまで書き綴り、ペンを置くにあたり、「実際に見てくること」の大きさ、自分の内なるものの変化の大きさにただただ驚いている。ソ連は、“大きな国”でなかった。小さな人びとがたくさん集まっている。日本と同じ国であった。私たちは、人間らしい人の心に“出会う”ため、どこまで自分の心を率直に開くかを問われている。とどけウクライナへ！ひとりひとりの心。原発事故は二度とあってはならない。とどけウクライナへ！一緒に地球の旅人である私たちの心。—— 本文「あとがきにかえて」から

○「環境保護運動は、どこが間違っているのか？」樋田 敦著 JICC刊

目次から ・牛乳パックはゴミ焼却場で燃やそう

・リサイクルも環境を汚染する

・分別収集運動でゴミの捨て場が枯渇する！

・どんな科学技術でもエネルギー問題は解決できない

事務局開設と維持会員入会のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、救援活動の拡大により事務作業量が膨大となったこと、これまで以上にきめ細かい救援をと事務局を開設しました。家賃は月25000円と大変安いのですが長期的に維持するにはまだまだ維持費が足りません。どうぞ維持会員に入会してください。

◎維持会員入会費 1,000円/月

(一年分まとめた場合 10,000円/年)

郵便振替口座：名古屋8-108610

(*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

尚、事務局の住所は、

〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL: 052-836-1073

(市営地下鉄鶴舞線川名駅より徒歩15分

// 中駅より徒歩12分)

チェルノブイリ救援・中部〈会計報告〉(1992.5.1-8.31)

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰り越し	8,162,037	* 医師来日研修費	3,212,798
寄 付 金	9,811,628	医療機器	386,809
ミルクワクチンカンパ	96,000	医薬品	3,724,661
事務所維持費カンパ	840,566	物資通関輸送費	303,099
書籍印税	230,720	移住基金	60,770
書籍・絵葉書・	—	通信費・電話・送料	306,071
テレカなどの売上	912,527	販売品製作・絵画修理	1,906,010
講演会報告会入場費収入	50,620	事務雑費・印刷費	82,330
絵画貸出料	45,000	小 計	9,982,549
		次期繰り越し	10,166,549
合 計	20,149,098	合 計	20,149,098

注) 尚、医師研修費用は、最終的に4,484,795円でした(9月集計数字)。

****お知らせとお願い****

- ・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文をまとめました。専門家の解説つき 一部350円。
- ・「チェルノブイリからの107通の手紙・絵画展」展示物を貸出中。
- ・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(板東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。
- ・救援物資を保管する倉庫、納戸、土蔵、などなどスペースを貸してください!
- ・救援・中部のスタッフ募集中。
- ・この通信誌「ポレーシェ」の購読を募集中。隔月発刊で年千円です。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・事務局維持会員になって下さい! 詳細は本誌をご覧ください。
- ・現地からチェルノブイリ特集英語版「CHERNOBYL HOSTAGES No.2」新着! 500円
- ・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード完成。一枚1000円50度数。

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表:長谷川三知子(9月より坂東弘美さんからバトンタッチしました。)

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を張った封筒を同封してください)